

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 29 年度

事業所番号	2770901037		
法人名	社会医療法人 祐生会		
事業所名	グループホームみどりヶ丘荘		
所在地	大阪府高槻市奈佐原4-7-1		
自己評価作成日	平成 29年 8月 8日	評価結果市町村受理日	平成 29年 10月 17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jizyosyoCd=2770901037-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 8月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本位で生活していただく事を目標に、食事・入浴・排泄はもとより、その時々一人ひとりの思いをくみ取り、その人らしい生活を営めるように支援しています。自分らしい生活を継続するためには、入居者個々に合わせたケアが必要であるため、出来る事・出来ない事・わかる事・わからない事等を把握し、穏やかに充実した生活を保ち、この場所で生活を続けていきたいと思ってもらえるように支援を提供しています。また家族には、連絡をこまめに取り、安心してもらえるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が地域貢献のために、小規模で家庭的な場を提供したいとの思いで設立した定員7人のホームです。共用空間は広くゆったりしており、日中、利用者は、テーブルに新聞を広げて読んだり、ソファでテレビを楽しむなど、思い思いの場所で自由に過ごしています。ホーム内には、話し声や笑い声が響いており、職員は、自然に利用者寄り添い、ゆっくりとした時間の流れの中で一人ひとりの生活のペースを大切にケアを提供しています。入居後も家族旅行や外出に出かけるなど、家族や友人との馴染みの関係が継続できるように支援しています。また、在宅での生活をできるだけ継続できるよう、自立した生活に向けて、日課のゴミ出しや1日3食の食事を生活の中心において、その日のメニューは利用者同士で相談し買い物に出かけ、調理するなど、食事作りを楽しんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人・ホーム理念を具体化した11項目の目標を構築し、自由に生き活きとその人らしく生活してもらえる様に、日々の業務及び認知症介護に取り組んでいる。また11項目を受付上に貼り出し、職員の意識向上に努めている。</p>	<p>法人の理念を実現するため「入居者の生活の場として、業務を優先するのではなく、入居者の気持ちを尊重して介護に努めること」など、具体的に分かりやすいイラストを挿入した11項目を掲げ、自立支援や利用者を中心としたケアの実践に取り組んでいます。また、パンフレットにも「みんなで創るあたたかい共同生活。家庭のぬくもり、みどりヶ丘荘で」を掲げています。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>スーパーなどへ買い物に出かけ、行きつけの店員と交流を図ったりしている。また地域の掃除などに参加して交流を図っている。散歩へ出かけ、地域の人、近隣の老健職員と日常的に交流している。</p>	<p>近隣公園への散歩、スーパーへの買い物などを通して、地域住民と日常的な繋がりができ、挨拶を交わしています。自治会の年3回の溝掃除には、利用者とともに参加しています。また、隣接する老人保健施設内での散歩や喫茶の利用を通して、デイケアの利用者や職員との新たな馴染みの関係が構築されてきました。</p> <p>隣接施設とグループホームが共同で開催する盆踊りには、地域の方が参加しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>病院や地域での介護相談会に参加し、介護家族の相談を受けている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際を報告し、家族、利用者、市職員や地域の人達から意見をもらい、質・サービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議は、開催要綱に従い、2ヶ月に1回、年6回開催しています。会議では写真を見てもらいながら、利用者の生活状況、ホーム行事等の様子を報告し、参加者から意見を聞いています。また、ホームの取り組み内容や今後の予定を説明し、協力を得る機会にしています。最近の参加者は、市職員と利用者家族が中心で、地域代表の出席が少ない状況です。管理者は、運営推進会議の意義をよく理解しており、地域との連携や支援を得るため、再度、地域代表の参加を検討していく意向です。会議録は職員に回覧し、情報を共有しています。</p>	<p>運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組みや改善課題を話し合ったり、地域の理解や支援、連携を進める貴重な機会です。地域代表の参加により、今後更に地域との連携が拡大し、利用者支援の向上に繋がることを期待します。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>定期的に介護相談員がグループホームに訪れ、入居者・職員と共に過ごしてもらっている。 また運営推進会議にも参加してもらい意見をもらっている。</p>	<p>管理者は、市担当者との連携は大切と考え、運営推進会議にも参加を得て、協力関係の構築に努めています。 市主催の研修会には管理者が参加しています。事故発生の際には市に報告をしています。また、認知症サポーター養成にも積極的に関わっています。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>内部研修にて身体拘束についての伝達講習を行い、身体拘束に関する理解力の浸透に努めており、当ホームにおいて、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関は自由に出入りをしてもらっている為、日中の施錠は行っていない。</p>	<p>管理者は身体拘束をしないケアの大切さをよく理解しています。研修を年1回は実施し、職員の意識の維持、向上に努めています。日中、玄関の施錠はせず、利用者の心身を束縛しない自由な生活支援に取り組んでいます。利用者が外出したような時には、職員は他の利用者を一緒に誘い、一時的な外出機会にするなど、工夫して支援しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内部研修にて高齢者虐待についての研修を通じて学ぶ機会を設け、ホーム内での出現を未然に防止している。 また、介護負担の原因を探り、入居者・職員のストレスの緩和に向けたケアの構築に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者から職員に対して、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を設けている。また入居者・家族には必要に応じて活用出来るように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際には、契約書・重要事項説明書を用いて、項目ごとに説明を行い不安・疑問を解消しつつ、家族・入居者本人から同意を得て行っている。また、介護保険改正に伴い、料金変更等においても事前に説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し匿名で意見を言えるようにしている。普段からコミュニケーションを積極的に取り気軽に物を言いやすい雰囲気を作っている。家族からの要望については、管理者に報告すると共に、職員と話し合う場を設け反映させている。	管理者は、家族との良好なコミュニケーションの維持・向上には特に留意しています。月に4~5回、ホームを訪問している家族も多く、その際、管理者や職員は利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いています。運営推進会議は、家族が参加しやすいように日時を設定し、多くの家族の参加を得て、意見や要望を聞いています。家族から聞き取った意見、要望は、管理者と職員が相談し、支援に繋げています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>通常の業務時の顔合わせの時に、職員からの意見・相談・提案を聞く機会を設けている。普段から気軽に意見が言える風通しのいい職場を作っている。</p>	<p>管理者は、主に職員の交代時を利用して意見や要望、提案を聞き、ホームの運営や利用者支援に活かしています。管理者と職員は、気軽に話し合える関係にあり、職員は自由に思いを伝え、相談をしています。</p> <p>最近、ソフト食を提供している利用者の食品の一部に硬めの物が有り、職員の提案で食べ易くなり、サービス改善に繋がった事例があります。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員個々と日々コミュニケーションをはかり、不満、やりたいことなどを把握し、職員が働きやすく環境改善するように努めている。</p> <p>また職員のケアにおける成功体験から、更なる自己啓発に繋げる様に働きかけている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者から職員へ認知症介護に関する内部研修を設け、介護現場における質の向上に努めている。また申し送り時等、管理者と1対1の場面でコミュニケーションを図りながら、入居者の個別ケアや認知症介護を学ぶ場を設けている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と交流を図り、認知症介護における悩みや相談を共有し、質の向上に向けた取り組みを行なっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたり、リロケーションダメージの減少を図る為に、入居前から食事・談話・散歩等の参加を求め、入居者や職員との人間関係の確立、またホームの環境になじみながら、徐々に本人自身と会話する機会を作り、会話の中から本人の本心に気付くように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から入居に至るまで、ホームの状況・環境・職員配置・金銭面等、家族の不安や求めている事を相談できる時間を事前に設け、家族が気軽に相談できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活の中で必要とされている支援を会話の中で本人と家族の本心を聞きとり、必要に応じて他のサービス利用も検討する様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人自身を尊重する事で、受容し共感しながら喜怒哀楽を共にし合える関係を作り、円滑な共同生活が出来る様に努めている。また、日常生活で本人が出来ること・やりたい事等を日々の生活で提供し、役割を担いながら個々の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議及び家族面会時に、共に考え共感し、日々の状態を受容してもらう様に働きかけている。入居者・家族との絆が途切れぬように、入居者自身の思いを代弁し、職員が仲介する事で関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>通院し続けてきた病院への受診。買い物は行きなれた店で、店員と顔なじみとなり、声を掛け合う関係が構築されています。また、家族の協力のもと外泊や外出、お墓参り等も行っている。また友人なども気軽に面会に来てもらえるように努めている。</p>	<p>入居後も家族の協力を得ながら、通いなれた美容院や墓参り、家族旅行など入居までの生活習慣を大切にしたい支援に力を入れています。友人の訪問もあり、書字が可能な方には年賀状なども勧めています。また、電話も希望があれば対応するなど、できるだけ馴染みの繋がりを継続できるよう努めています。入居前の住まいの近くに、車で出かけることもあります。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>日常生活内で、料理やそうじ、洗濯物たたみ、片付け等、入居者同士での関わり合い、お互いの得意分野・役割を職員も一緒に交じり、構築していく支援に努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用が終了しても、気軽に立ち寄ってもらったり、毎週日曜日にグループホームにお弁当を届けてくれたりと、継続的な関係作りを行なっている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活状況、また日々の関わりや会話の中から、個々の希望・要望を把握した上でサービス提供に努めている。	利用者との会話を通して、どのように暮らしたいか、希望を聞き取るようにしています。自ら意思表示できない利用者に対しては、日常の会話や表情の中から思いを把握できるように努め、職員間で情報を共有して支援の方向性を検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居時、本人・家族より情報をもらい、これまでの生活が継続出来る様に支援している。また変化しつつある日々の状況を観察し、必要に応じたケアの見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中での役割ややっていることなどを確認しつつ、日々の変化に注意をはらい現状を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>毎日の生活の中で入居者個々の希望・要望を把握し、本人、家族、職員などの関係者で話し合い、本人にとってより充実した生活になるように介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画は、6ヶ月を目途にサービス担当者会議を開催し、計画作成担当者を中心に、利用者、家族の思いなどを聞き取り、作成しています。計画に沿って実施した内容は、日々記録に残し、申し送りなどを通して職員間で情報共有しています。また、1ヶ月に1回モニタリングを実施しています。作成した介護計画は、家族や利用者に説明を行い、同意を得ています。</p>	<p>介護計画作成の上で、利用者の生活歴や背景、嗜好、趣味などの全体像が分かりにくいものとなっています。思いや暮らしの希望など、誰が見ても分かるようなシートに整理、情報共有し、利用者との話題作りに活用されてはいかがでしょうか。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の生活の中での入居者の状態観察を行い記録している。状況に応じて、本人・家族と相談し見直し・変更を行い、個別ケアにつなげている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>定期受診・通院等は家族の状況に応じて相談し、必要に応じて柔軟な支援が行える様に対応している。また、入居者が欲しいものは、買い物に出かける等のサービスを提供している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員、地域の方々や買い物先の店員等との交流を深めており、地域の掃除などにも参加し、利用者の意向を必要に応じて、継続して支援する様に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望しているかかりつけ医に継続的にかかる様に支援している。受診に際し家族同行としているが、緊急時・同行困難時は、職員が代行するようにしている。また、かかりつけ医に入居者の日々の身体・精神状況等の情報提供を行う等して、医療との連携確保に努めている。	利用者、家族が望むかかりつけ医を基本としています。連携している医療機関はありますが、現在ホームへの定期的な往診はありません。ホーム内の看護師が、近隣の医療機関や隣接施設の医師と必要に応じて連携をとり、家族の協力のもと、受診の支援をしています。夜間や緊急時には、医療機関と連絡できるオンコール体制があります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場の看護職に相談し、利用者が適切な受診、介護を受けられるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に際して、受け入れ病院に入居者の情報書を提示している。また、医師と病院相談員、家族との相談・連携を図りつつ、早期退院が出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態に応じて可能な限りホームでの生活を希望される場合は、かかりつけ医・家族・ホームとの連携が図れる様に関わり続け、ホームで可能なターミナルケアについて説明を行っている。本人・家族の希望をなるべく可能となるように支援している。	入居の際には、重度化した場合や終末期に向けての利用者、家族の意向を聞き取り、ホームの方針を伝えています。ホームでは「看取りに関する指針」を作成しており、看取り介護の視点や具体的なボディケア、メンタルケア、家族支援の方法などを明文化しています。まだ看取りをした利用者はいませんが、利用者、家族の要望に応じて、更なる医療との連携強化、体制の構築を検討しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故時に早期対応が出来る様にマニュアルを備え、応急処置に関しては内部研修で実践力を養っている。また看護師との連携を密にし、早期対応が出来る体制、常に連絡をとれる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署立ち合いの基、昼夜を想定しての避難訓練を年2回、入居者と共に実施している。また実施に当たり事前に自治会へ報告・協力をお願いしている。消防用設備等の設置については、法令改正概要を基に設置している。</p>	<p>年に2回、隣接施設と合同で避難訓練を実施しています。事前に消防署へ計画書を提出し、実施の様子を写真に撮っています。大規模地震に対応した消防訓練マニュアルを作成しており、非常災害時の食料、水、おむつなども備蓄しています。今後は、訓練後の実施内容や参加人数などの書類の整理を行い、更にグループホーム独自でできる日常的な対策を検討していく予定です。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>プライバシー保護についての勉強会を実施する等して、言葉使い・プライバシーを損ねないケアを徹底して行なっている。また、各種管理書類等においても、職員に守秘義務について理解を促し、徹底管理している。</p>	<p>職員は隣接施設が実施する、人権やプライバシーに関する勉強会に可能な範囲で参加しています。認知症の為、自己主張できない利用者の思いに少しでも寄り添うため、職員同士が、利用者との対応や関わりから気づいたことを情報交換しています。管理者は、長期の入居者の方に対して、馴れ合いにならないように注意を払いながら、職員とともに利用者一人ひとりの尊厳を守ることを意識しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常会話の中でも、自己決定出来る様な選択肢のある声かけを行い、入居者の思いを尊重し支援している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>業務優先の考え方を廃止し、一人ひとりのペースで生活出来る様に、柔軟な支援を実施している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>本人希望で行ってもらっているが、季節に沿わない服装時は、本人の尊厳を保ちつつ援助している。また理容・美容に関しては、本人・家族の希望する店に行ってもらう様に働きかけている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買物・料理・盛付け・食事・片付けを一連の流れと考え、入居者とともに実施している。日々のメニュー決定、買い物なども入居者と職員と一緒にやっている。	職員は、日々の生活の中で食事を重要なものと捉え、3食ともホームで調理をしています。メニューは、冷蔵庫にある食材を参考に職員が利用者と相談して考えることもあります。また、一緒に食材を買いに行き、メニューを決めることもあります。食事に関する買い物から、片づけの過程で、包丁を使う、食材の下ごしらえをする、配膳、後片付けなど、利用者のできることは行っており、利用者の持つ力を引き出す機会にもなっています。 定期的に隣接施設の栄養士による栄養評価も受け、アドバイスをもらうなど、健康への配慮もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の嗜好品を把握し提供し食事の楽しみを広げる支援を心がけている。水分は水分補給管理を行っている。またメニューの評価を毎週1回管理栄養士に行ってもらい、栄養バランスが偏らないように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。夕食後は、必要に応じて義歯預かり・洗浄を職員が行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄状況を把握し、個々に合わせた排泄物品を提供している。排泄動作において、残存能力を活かした介助を行い、行きたい時にトイレで排泄する習慣を継続している。	職員は、現在、チェックシートは使用していませんが、利用者の排泄リズムを把握しており、必要時、トイレ誘導しています。布パンツの利用者にはできるだけ布パンツのままで生活できるように、現状維持を心がけています。パッドなどの使用も、できるだけ利用者の状態や希望に応じて対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の管理。食事では、食物繊維・乳酸菌を摂取する様に心がけている。また日中の散歩や体操等、体を動かす機会を設けている。必要に応じて、下剤、浣腸を使用し排便を促す。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間・曜日等を決めずに、入浴したい時に自由に入浴してもらっている。また必要に応じて本人同意のもと、介助を行なうようにしている。	最低、週に 2～3 回の入浴を勧めています。希望があれば毎日でも入浴は可能で、入浴時間も個人の希望により対応しています。入浴を楽しめるように、好きな入浴剤を使用したり、風呂に入ると目の前に富士山の絵が見えるように壁面を飾っています。入浴を拒否する利用者もいますが、足浴を行うなどしています。重度になり、座位が困難となった場合には、隣接施設の特別浴槽を利用することも可能です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	入居者個々にまかせており、就 寝時間は決めてはいない。援助 が必要な利用者に関しては、傾 眠や居眠りが見られた際声を かけて、居室で休んでもらう 様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬の説明書を管理して、職員各 自で理解する様に徹底し、日々 の状態観察を行ない、異変に気 付けば早急に看護師・かかり つけ医に連絡し、内服の指示を もらう。また内服忘れの防止の 為内服後チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	入居者それぞれに、本人に合わ せた役割をもってもらい活躍の 場を設けている。また、それぞ れに楽しみごとなどをもってい てもらう、有意義な生活が営め るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者個々の好みを把握し、買い物・散歩・喫茶店等へ行きたい希望に応じて、外出出来る様に支援している。また普段は行けないような場所でも、家族と協力しながらでかけられるように支援している。	夏場は隣接施設内の喫茶や回廊に散歩に出かけ、気分転換や機能の維持に力を入れています。毎日のごみ捨て、駐車場横の公園への散歩、車でスーパーに買い物、季節ごとの花見などにも出かけています。朝夕の涼しい時間帯にはホーム前の椅子に座り、外気浴や道行く学生たちを眺めて過ごすこともあります。家族の協力を得て、墓参りや旅行にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理困難で紛失の恐れがある方でも、本人・家族の希望であれば、同意を得て所持してもらっている。必要に応じて買い物等で、購入希望があれば職員付き添いで支払まで極力行えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望に応じて電話をしたり、してもらう様にはしている。また希望に応じて、家族宛に手紙を書く等の支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気の明るさだけでなく、外光が照らされる工夫がされている。居間においては顔を見合わされる座椅子・ソファを設置。季節による花を飾ったり、温度調整などを行い、入居者個々がくつろげる環境を工夫している。	玄関の格子戸をあけるとリビング兼食堂が広がり、開放的な空間となっています。リビングにはテレビの前にソファがあり、くつろげる場となっています。台所には、冷蔵庫、食器棚があり、台所用品、調理道具、調味料や食材が置いてあり、常に五感を刺激しています。共有空間には 10 数個の時計が利用者の目線の位置に掲げてあり、時間が確認できるように工夫しています。また、壁面には写真や作品を貼り、視覚的にも楽しめるようになっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間で過ごしてもらったり、顔を見合せながら会話出来るように椅子を設置したりと、思い思いに過ごしてもらえる様に工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物・好みの物・使い慣れたものを使用してもらい、居室を利用者・家族の思い思いに設置し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は広くゆったりしており、電動ベッドと棚付きの洗面所が設置されています。室内への持ち込みは自由で、利用者の使い慣れたテーブルやタンス、好みのカーテン、椅子、冷蔵庫、テレビ、身の回りの化粧品や飾りなどを持参しています。職員は、家族との繋がりを大切にしてほしいと、写真などを持参していただくように働きかけています。床はフローリングですが、本人の希望に応じて、畳や絨毯を敷くことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の出来ること・わかる事を把握し、自立支援に向けた取り組みを実施している。		